

観光協会ヒアリング 補足資料

第三次羽村市産業振興計画 策定のための基礎情報

参照：令和7年度羽村市観光協会事業報告
令和6年度西多摩地域入込観光客数調査報告書

内容

- 01 羽村市観光協会事業報告 p3-p5
- 02 西多摩地域入込観光客数調査概要 p6-p7
- 03 羽村市の観光客の動向・特性 p8-p9
- 04 西多摩地域の観光における現状分析 p10-p15
- 05 西多摩地域の観光振興施策への提案 p16-p17
- 06 羽村市観光の今後の方向性について p18-p19

01

羽村市観光協会事業報告

令和7年度事業

令和 7 年度事業実績

観光情報の収集及び発信

- 観光協会だより、観光協会ホームページを活用した。

観光施設の管理運営

- 観光案内所を開設し、延べ4, 818人が来所した。
- レンタサイクルの利用が118件あった。

観光資源の保全及び開発

- チューリップオーナーやボランティアの参加を募り、球根の掘り取りや植え付けを行った。
- 個人133人、法人・団体72件、計2,210,500円の協賛金収入があった。

都や周辺地域の観光行政との協力

- 東京多摩観光フェアへの出店や、ロゲイニングのほか、周辺自治体を巡るツアーに協力した。

特産品として酒類の販売

- 酒はむら、羽村産生ホップ使用クラフトビール、羽村産ブドウ使用堰ワイン、酒粕等

令和7年度事業実績

観光に関するイベントの開催

- 花いっぱいコンクール（春季、夏季）
- 花と水のまつり
- 福生市観光案内所コラボツアー
- 介山忌
- 介山が歩いた故郷羽村への道
- 福生・昭島合同まち歩き&ガイドツアー
- 駅からハイキング「幕末、武術額が奉納された2つの玉川神社と古刹を訪ねて」
- 羽村山口軽便鉄道廃線探検
- 観光ガイド養成講習会
- 羽村堰周辺清掃活動
- 多摩川清掃活動

02

西多摩地域入込観光客数調査概要

調査目的・調査対象・調査方法など

西多摩地域入込観光客数調査

- 【調査目的】
多様化する観光客のニーズを的確に把握し、西多摩地域を構成する市町村における今後の観光施策や観光関係者の事業展開の基礎資料に供することを目的とする。
- 【調査期間】
令和6年4月1日～令和7年1月31日
- 【実施方法】
GPSデータや、来訪者へのWeb回答アンケート等
- 【調査種類】
来訪者数調査、主要観光施設・宿泊施設等利用実績調査等
- 【対象地点】
羽村堰周辺、ヒノトントンZOO（羽村市動物公園）

03

羽村市の観光客の動向・特性

性別・年代・訪問理由・期待すること・入込観光客数など

来訪者アンケート結果等

- 【性別】男性：150人 女性：136人
- 【年代】30代：87人 40代：72人 50代：45人
- 【訪問理由】
 - 多数：自然や環境を楽しみたいから、地元だから、のんびりと過ごしたいから
 - 少数：キャンプ・バーベキュー、ものづくりなどの体験活動、地域のグルメやお酒
- 【期待すること】
 - 多数：自然・景観に触れること、小さな子供連れで楽しめるコンテンツ
 - 少数：写真映えするスポット、グルメ・ショッピングなど街歩き、社寺・美術館等歴史文化
- 【入込観光客数】
 - 年間入込観光客数の延べ人数は約42.0万人
 - 日帰り利用者が約40.3万人、宿泊利用者が約1.8万人

04

西多摩地域の観光における現状分析

情報発信・ブランド育成・インバウンド誘客・消費額の拡大・市町村間連携の強化

情報発信

西多摩地域への来訪回数に関する質問

「5回目以上」の回答が47.9%

西多摩地域に来訪するきっかけとなった情報源

「以前来訪した際の自身の経験」	35.0%
「家族や友人・知人の話」	26.3%
「地域や施設の公式ウェブサイト」	18.9%
「施設や一般ユーザーのSNS投稿」	11.8%
「自治体・観光協会パンフレット」	5.0%
「自治体や観光協会の公式SNSによる情報発信」	2.5%

西多摩地域への来訪においては、過去の経験による再訪や知人等から得た情報による訪問が多いのに比べ、地域の自治体や事業者からの情報が来訪動機となっているケースは少ないことが分かる。地域による主体的な情報発信を強化することで、地域観光に対する認知度の向上や、新規来訪者の獲得を図ることが重要となる。

自治体や観光協会の公式SNSからの発信をきっかけとした来訪が少なく、PR施策としての課題が見られる。他地域の活用事例などを参考に戦略的・効果的な情報発信を行うことや、SNS投稿頻度の向上やユーザーとの積極的なコミュニケーションを図ることが施策として考えられる。

ブランド育成

西多摩地域への訪問理由に関する質問

「自然や景観を楽しみたいから」	61.2%
「登山や川遊び等、自然の中でのアクティビティを楽しみたいから」	23.5%
「のんびりと過ごしたいから」	14.8%

西多摩地域への来訪目的として、豊かな自然環境と、そこで体験するアクティビティや自然の中での癒しが求められ、地域観光の魅力と認知されていることがわかる。コロナ禍を経た旅行スタイルの変化や、アウトドアブームを一因として、この傾向はより強まっていると考えられる。

西多摩地域で買えたら嬉しいものや体験したいこと

「地域ならではのグルメ」 53.2%

地域への訪問理由

「地域のグルメやお酒を味わいたいから」 8.6%

来訪者が潜在的に地域に求めていることとして「グルメ」の存在は非常に大きいものの、実際に来訪動機となるほどの地域グルメがない、または十分に認知されていない状況を示唆している。

食によるブランドディングにより地域の魅力向上を図ることが重要。羽村市ならではのグルメを広く訴求することが求められる。

インバウンド誘客

令和6年度 西多摩地域インバウンド旅行者数 約6.3万人

西多摩地域で体験する（した）こと

「日本食を食べること」「自然・景勝地観光」「登山・アウトドアアクティビティ」「日本の酒を飲むこと」と続いている。インバウンド旅行者は自然観光だけでなく、「日本」を感じられる食文化を求めていることが見てとれる。インバウンド観光においては、その土地ならではの自然や地域独自の文化を体験することが重要視されている。西多摩の伝統文化を海外へPRすることが、インバウンド誘客のための有効な施策と考えられる。

インバウンド旅行者が西多摩地域で改善して欲しいこと

「スタッフとの外国語でのコミュニケーション」 35.5%
「外国語の表示」 26.4%

観光従事者が自施設や地域観光の課題と感ずること

「インバウンド対応の遅れ」 36.5%

翻訳アプリやAI翻訳サービス等、近年急速に発達するデジタル技術の活用により、省人化・業務効率化と多言語対応を両立させる施策が有効となる。

消費額の拡大

西多摩地域における来訪者一人あたりの平均消費額 11,256円

観光の活性化を図る一方でオーバーツーリズムを抑制し、持続可能な観光地経営を実現するためには、来訪者数の増加以上に、来訪者一人当たりの消費額を増やすための取組みが重要となる。

日帰りでの来訪が91.4%宿泊を伴う来訪が8.6%と、日帰り旅行者が9割以上を占めている。また、西多摩地域で宿泊した人の平均宿泊数は1.53泊で2泊以下となっており、週末を利用した日帰り旅行や1泊での旅行が主となっている。宿泊を伴う旅行を増やすとともに、宿泊者一人当たりの宿泊数の延伸を図ることが、消費額拡大のために重要となる。

その具体策として、豊かな自然環境での滞在型観光や、ワーケーションの促進などが挙げられる。宿泊施設の整備や長期滞在プランをPRすることが重要となる。また、「土産代」、「体験・アクティビティ代」とともに501円から1,500円が最も多くなっており、これらの項目における販売の強化は、消費額拡大を図る上で非常に重要となる。

土産においては、多摩産材をはじめ農産、畜産品等の地域産品を活用した商品開発とそのPR
体験・アクティビティにおいては自然アクティビティや農業・酪農体験、伝統文化体験といった体験型プログラムの開発・拡充がそれぞれ求められる。

市町村間連携の強化

来訪者の平均訪問市町村数は1.13

地域間の周遊を活性化させ、圏域全体での観光消費の増加に繋げる施策が求められる。具体的な施策案として、モデルルートの造成、スタンプラリー等の周遊イベントの企画が考えられる。多くの来場者が見込まれるイベントを地域情報発信の起点とし、来訪者へ西多摩の魅力を効果的に伝えることが、周遊促進のための施策として考えられる。

市町村間の移動については、奥多摩町と青梅市・檜原村間の移動、あきる野市と日の出町・檜原村間の移動、また青梅市と日の出町間の移動がそれぞれ多い一方で、福生市、羽村市および瑞穂町については市町村間の移動が少ない結果となった。

自然環境でのアクティビティや温泉などが観光素材であり、地域外からの来訪が多い西部エリアと、街歩き型観光が主であり、周辺住民が来訪の中心となっている東部エリアとの地域特性の違いを反映している。それぞれの地域特性を活かし、差別化を図ることが重要。

福生市では国道16号沿いを中心とする和洋の文化が入り交じった街並み、羽村市では地元産のとうがらしを使った「激辛フェス」等の地域飲食店を巻き込んだイベント、瑞穂町ではアニメや音楽ファンが多く訪れる聖地巡礼スポットなど、既に街歩き観光の具体的な取組みが進んでいる。

これらの取組みを推進し、西多摩地域としての多様な魅力を発信することが、地域観光の更なる活性化につながる。

05

西多摩地域の観光振興施策への提案

まとめ

まとめ

情報発信

S N S等を活用した積極的な情報発信とともに、地域外からの来訪が多いスポットやイベントを起点とした情報発信を強化する。

ブランド育成

西多摩地域の魅力として広く認知される「豊かな自然環境」を地域ブランドとして更に磨き上げるとともに、その障壁となるオーバーツーリズムの緩和に向けた取組みを進める。また、地域食材を活用した「グルメ」によるブランディングを図り、商品開発・P Rを強化する。

インバウンド

西多摩地域独自の文化や自然環境を活かしたコンテンツを造成し、海外からの誘客拡大を図る。A I翻訳技術等の活用により、課題である多言語環境の整備に取り組むことも重要となる。

消費額拡大

宿泊者数および1人当たりの宿泊数増加を目指し、滞在型観光を推進する。また、土産や体験・アクティビティにおける高付加価値商品の開発、販売強化に取り組む。

市町村間の連携

モデルルートの造成や周遊イベントの企画により地域間移動の活性化を図るほか、東部エリアを中心とした「街歩き型観光」の推進により西多摩地域の多様な魅力を発信する。

06

羽村市観光の今後の方向性について

観光協会ヒアリング結果より

情報発信の強化

X、インスタグラム等SNSのほか、市公式LINEを活用し、積極的な情報発信を推進する。

新たな観光資源の発掘

- ・名産品の開発

街歩き企画において集客効果を上げるため、羽村らしさをアピール出来るよう、グルメによる「ブランディング」について検討する。

- ・体験型イベントの開発

参加者が主体的に参加出来るようなイベントとして、お寺での座禅体験、茶道体験、うどん打ち、そば打ち、稲作等農業体験などの実施について検討する。